

「挨拶という糸で人をつな

ぐ」

小田原市立城北中学校

三年 越後 一花

「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」

私は、普段から家族や友達、先生に挨拶をしています。でも、本当は挨拶をすることが少し苦手です。特に、あまり親しくない人と挨拶をするときは、声が小さくなってしまったり、自分からは言えなかったりします。小学1年生の頃は、登下校の見守りボランティアの人に挨拶ができなくて、よく祖母に怒られていました。当時の私は「どうして挨拶しないといけないのかな？」と疑問に思っていました。高学年になると『挨拶は地域の人と自分をつなぐ大切なもの』だということがわかりました。中学生になって、学校での挨拶

挨拶運動が始まると、「自分から挨拶してみよう」と思えるようになりました。できるだけ声を出して挨拶するようにしていたのですが、ある日声をかけた2回とも挨拶が返ってこないことがあり、「本当に挨拶には意味があるのか？」という気持ちになってしまいました。それから、ちょっと頭を下げるなど会釈で済ませることが多くなってしまったのです。

このように、挨拶には人の気分を変えてしまう力があるのではないかと思います。地域の人と笑顔で挨拶を交わし合うことができれば、暗い気持ちを抱えている人も少し気持ちが明るい方向に向くのではないのでしょうか。私も、会釈に気づいて返してもらえると自然と笑顔になることができます。挨拶は笑顔のきっかけになるのです。笑顔になれる挨拶をきっかけに、いい人間関係を築くことで他人に負の感情を抱くことが少しでもなくなるといいなと思います。

挨拶には、防犯の効果があるとも言われて

います。地域の人と気軽に言葉を交わし合えることで、不審者に「ここは目が行き届いている」と感じさせることができるそうです。例えば、地域の人に毎日挨拶をすることで自分を認識してもらえるので、トラブルが起ったときに助けをもらうことができるのではないのでしょうか。

私の中学校でも、挨拶運動があります。今までは特に意識せず、挨拶を返すだけだったので、自分から挨拶をできるようにしたいと思います。私は人と関わるのが苦手です。だからこそ、挨拶という小さなきっかけで人とのつながりを広げるとともに、笑顔になれたらいいなと思います。学校だけでなく、私の住んでいる小田原市でも『明るく住みよい社会を地域のつながりで作っていくためのきっかけづくり』を目的に、毎年挨拶運動が行われています。

最近は、SNSやインターネットでやりとりをすることが増えてきていますが、人と実

